

## ■ 積雪量が世界一?! ■

積雪量が世界一のところはどこでしょうか？ 裏磐梯は雪が多いけど世界一なの？いや早合点せず、考えていきましょう。

雪すなわち寒いところ、との発想からシベリアや北米内陸等を考えますが、寒いだけでは雪は降りません。雪の素となる水蒸気がたくさんあることも条件です。そして、多量の水蒸気が特定の場所にもたらされる一定の卓越風（季節風）が吹き続けることも必要になります。

こうした条件が地球上であてはまるのは、温帯～亜寒帯の大陸東岸・西岸などです。カナダからアメリカ合衆国にかけての東岸及び西岸地方、スカンジナビア西岸地方、そして日本付近です。



特に日本では、シベリア高気圧からの北西季節風が対馬暖流の流れる日本海で効率よく多量の水蒸気を蓄え、その直後に日本の<sup>嶺りょう</sup>嶺山脈（奥羽山脈、越後山脈、飛騨山脈など）にぶつかるので、地域として世界一の降雪を見ます。もし対馬海流が寒流だったら海面での水蒸気蒸発は少ないし、日本海がもっと広がったらシベリア寒気団が温まって雨になるだろうし・・・と、絶妙な海陸分布、海流分布、地形分布が日本海側を世界一の雪国にしているのです。

福島県では、只見地方があてはまります。さて裏磐梯は、といいますと、雪の降り方が只見とはかなり異なりますが、只見町の2倍近い標高のため一層寒さが厳しいです。そのため降った雪がなかなか解けず、いつのまにか積雪量が只見に肉薄する、ということが時々起こるのです。

さて皆さん、雪を大いに活用するといいたしましょう！



## ■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

すっかり一面雪に覆われた裏磐梯ですが、真っ白な雪の上に、こんなものが落ちていたことがあります。大きさは1.5cmほどで、茶色い色をしています。一片を見つけると、そのまわりにも何片か落ちていたことがよくあります。

さて、これは一体何なのでしょう？

- ① 落ち葉
- ② 植物の種子
- ③ 鳥の羽の一部
- ④ 落花生の皮
- ⑤ ゴミ



正解は②で、「クマシデ」という植物の種子です。秋には、しめ縄の<sup>しで</sup>四手飾りを連想させるような形をした薄緑色の実をつけます（写真下）。この実の一片一片が、今回の落とし物です。



片側にギザギザの入った葉のようなものの先に、小さな楕円形の種子がついています。種子を抱いている葉のようにも見える部分は「果苞<sup>かほう</sup>」といい、これがプロペラの役割を果たすことで、種子はくるくると回りながら落ちていきます。カエデの仲間の種子が風に乗って飛ぶことはよく知られていますが、シデの仲間も風を利用して遠くに種子を飛ばします。秋までに落ち切らなかった種子が、今の時季にととき雪の上で見られるという訳です。

前の季節に見ているものに、また違った姿で再会することもある冬の散策。ぜひ、雪の上の落とし物に注目してみてください。